

経営説明資料



2014年5月27日 決算・経営説明会

日本製紙株式会社

本日の説明内容

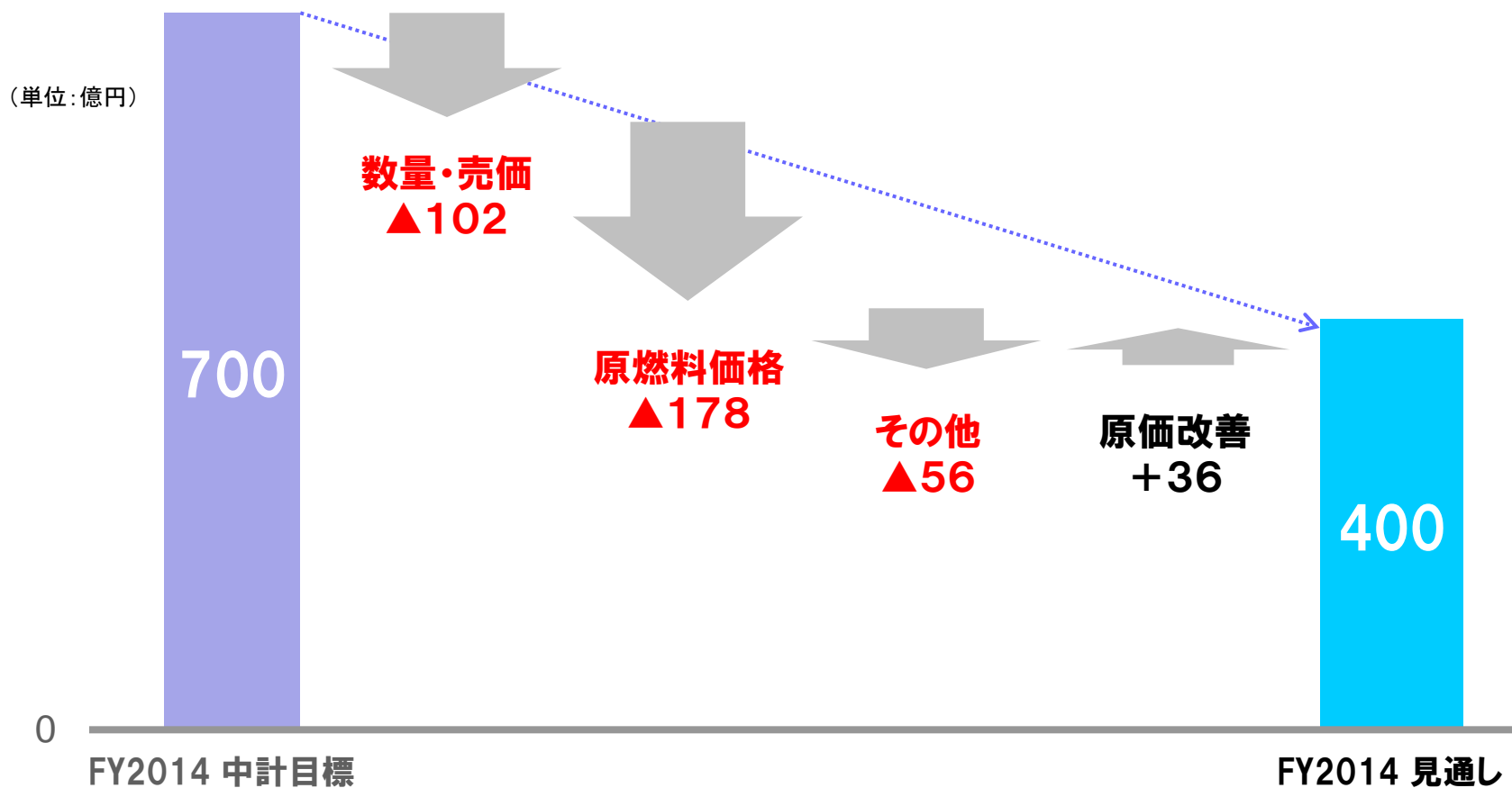
1 4次中計の進捗状況

2 今後の方向性

3 次期中計策定について

1 4次中計の進捗状況 - 営業利益差異分析

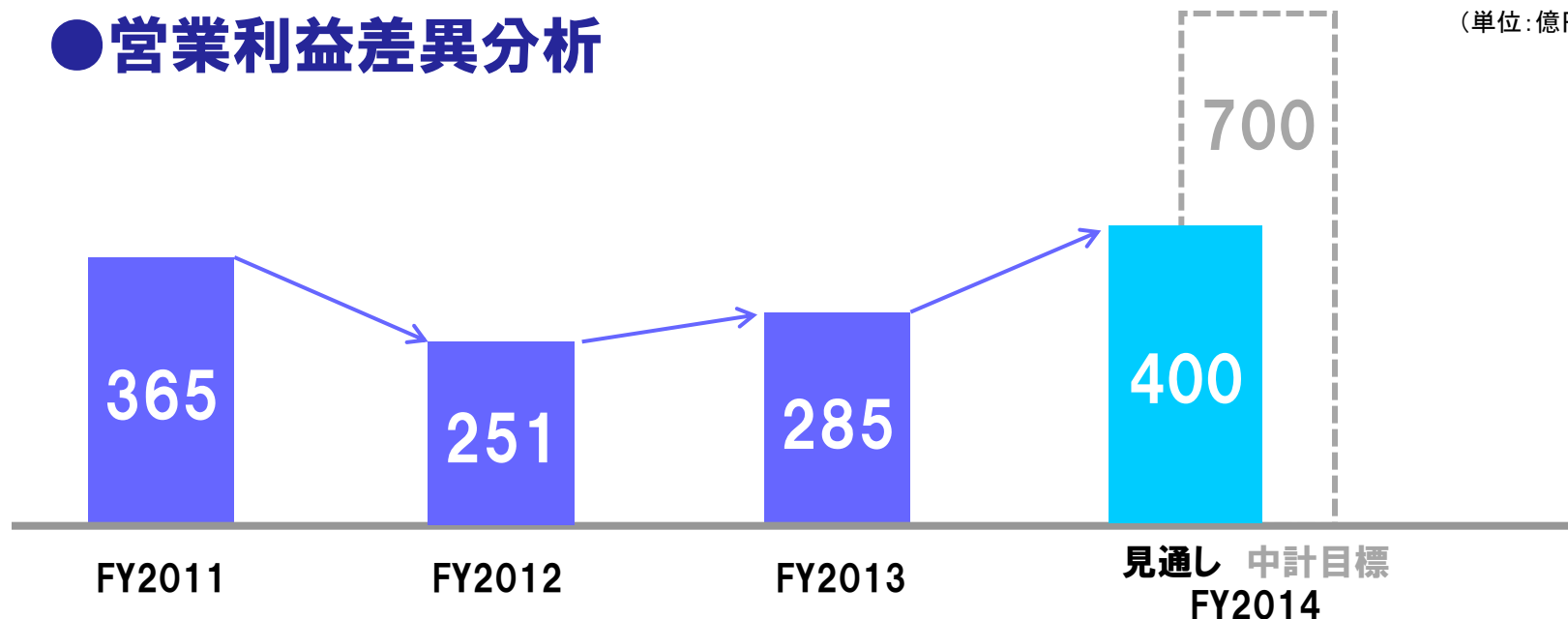
原価改善は計画を上回るも、営業利益は当初計画未達の見通し



1 4次中計の進捗状況 - 営業利益差異分析

● 営業利益差異分析

(単位: 億円)



増減益要因	FY2011 -2012	FY2012 -2013	FY2013 -2014	3年間計	中計	対中計
数量・売価	▲147	+ 45	+230	+128	+230	▲102
原価改善	+179	+191	+ 46	+416	+380	+ 36
原燃料価格	+ 14	▲153	▲149	▲288	▲110	▲178
その他	▲160※	▲ 49	▲ 12	▲221	▲165	▲ 56
合計	▲114	+ 34	+115	+ 35	+335	▲300

※2011年度の震災関係固定費の特別損失振替影響他

復興計画を完遂、2013年度には洋紙販売も回復

- 復興計画 12台のマシン停機、1,300名の合理化を軸に
250億円の改善効果を実現

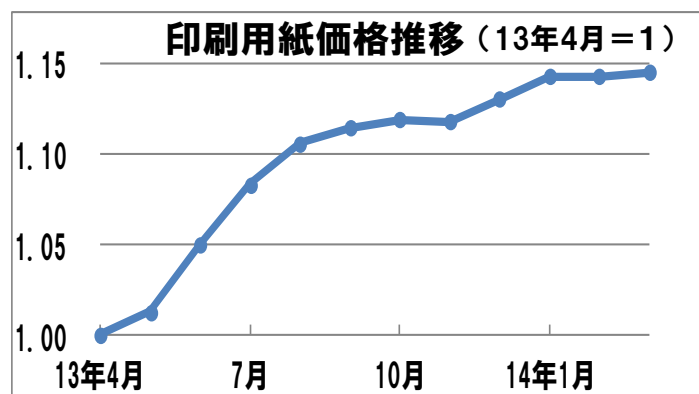
(単位:億円)	計画	実績	備考
要員合理化	100	100	1,300名を削減
比例費削減	50	50	パルプ自製化・最適化、オイルゼロ化、 銘柄削減、物流費削減等
固定費削減	85	88	製造設備12台の停機
売電等	15	12	IPP他売電数量増
合計	250	250	



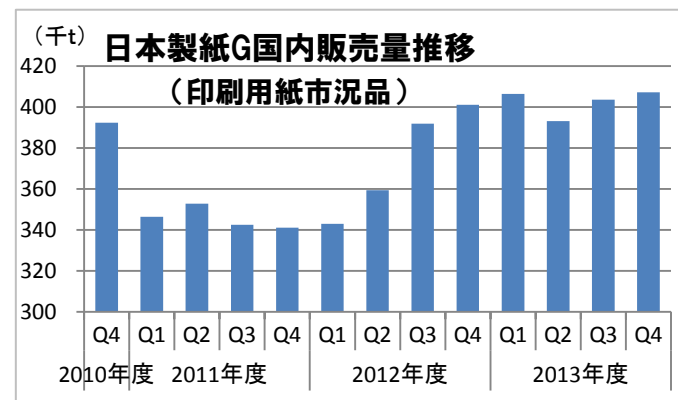
洋紙設備
稼働率
97%に向上
(2013年度実績)



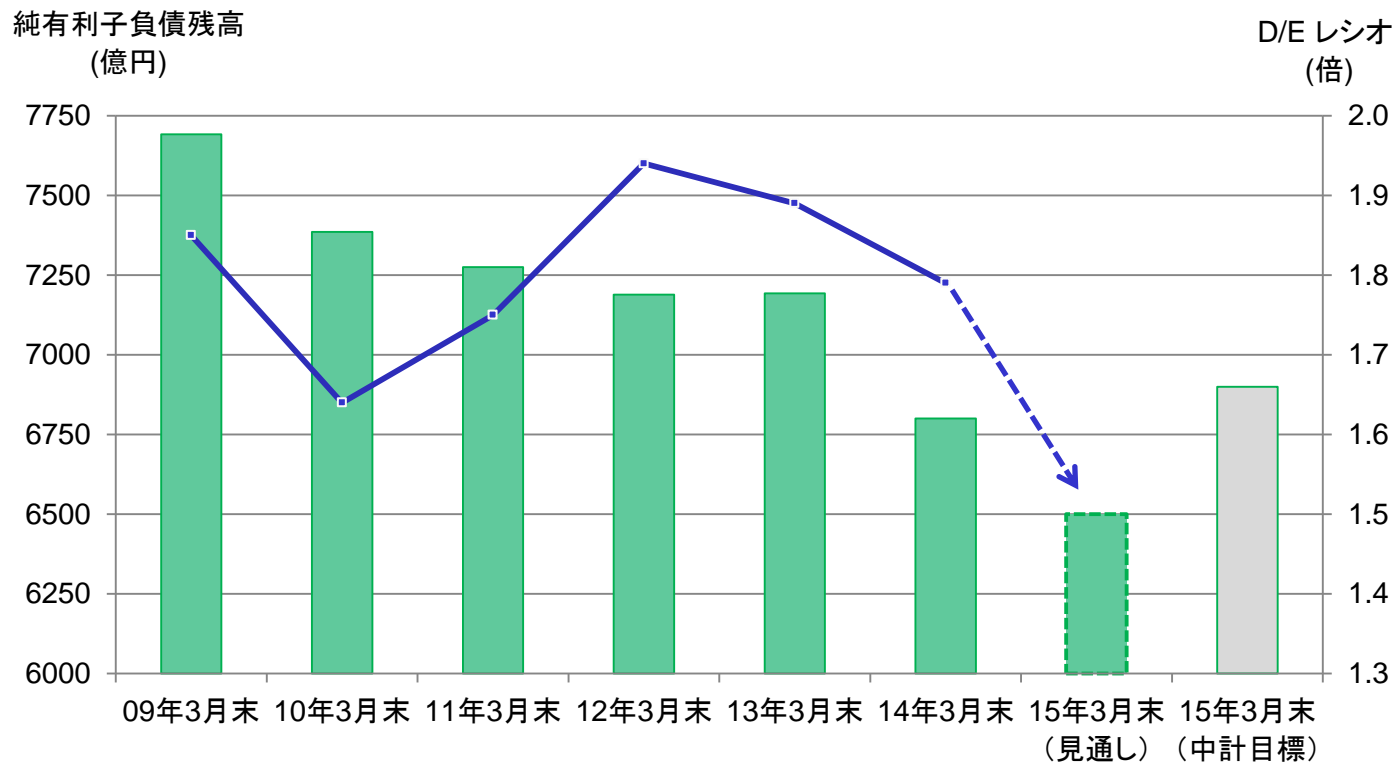
- 洋紙販売 2013年度は印刷用紙市況品で2回の値上げを実行



出典:日本銀行「企業物価指数」



純有利子負債削減は計画を上回り達成



2015年3月末見通し

■ 純有利子負債残高
6,500億円

--- D/Eレシオ
1.55倍

事業構造転換を強力に推進

① 成長分野の伸長、創出

- エネルギー、バイオケミカル、ヘルスケア、
パッケージ・産業用資材
- 未来素材、未来事業創造に向けた研究開発

② 紙・板紙事業の競争力強化

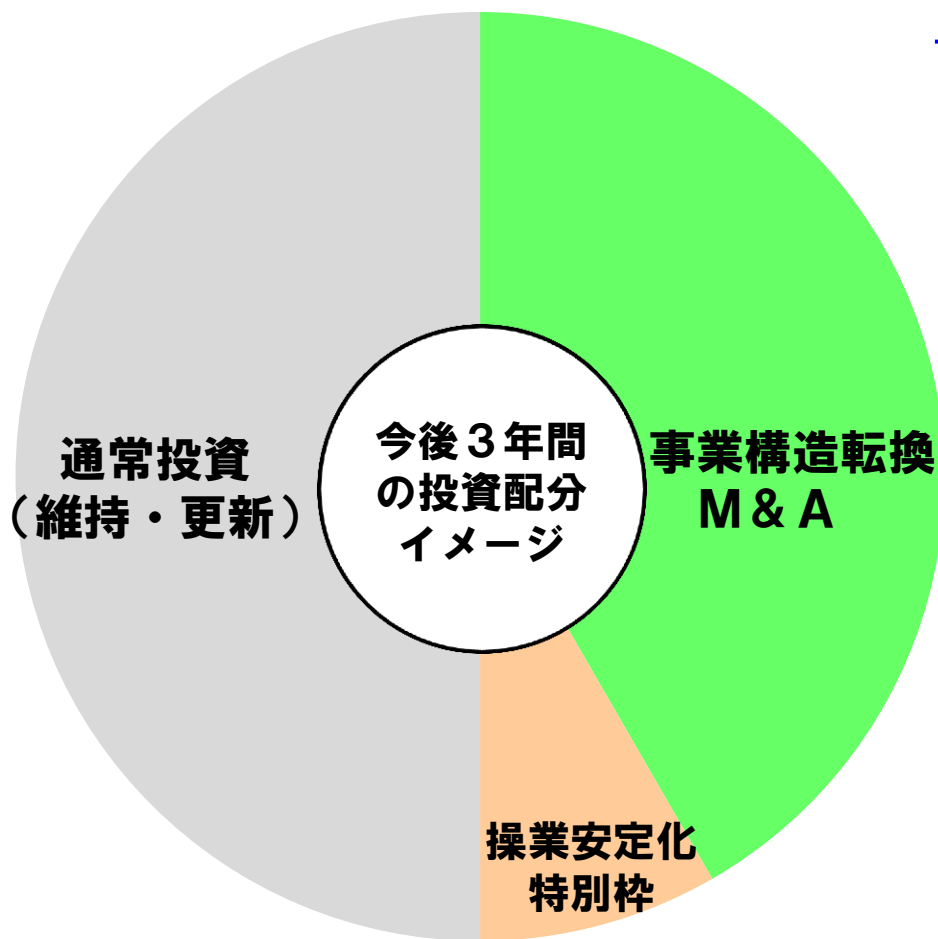
- 操業安定化とコスト競争力強化
- 品種転換

③ グローバル市場の獲得

- 成長市場での需要獲得に向けた事業展開
- 輸出販売強化～グローバル生販体制の構築

グローバルレベルでの「総合バイオマス企業」として成長発展

積極的に構造転換投資を実施



成長分野の伸長、創出
国内外での事業展開

- エネルギー
- バイオケミカル
- ヘルスケア
- パッケージ・産業用資材

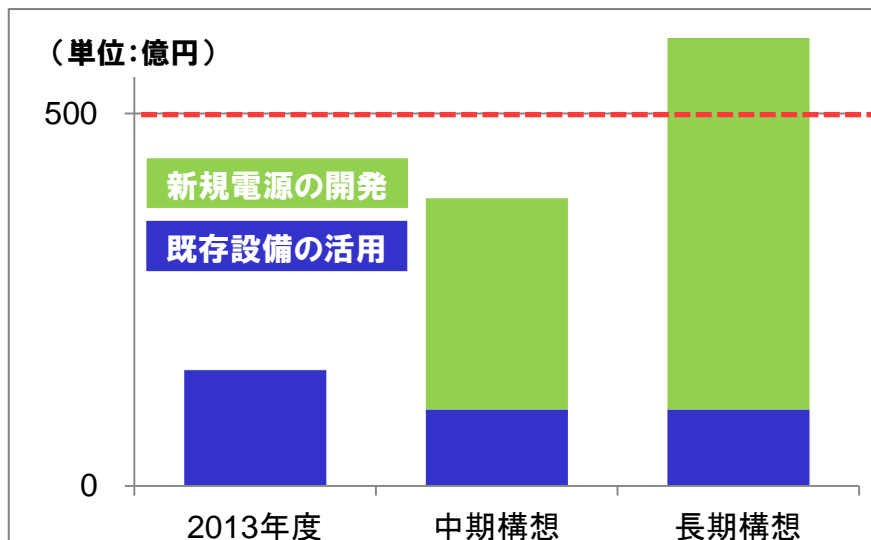
成長分野の伸長・創出

- **エネルギー事業**
- **バイオケミカル事業**
- **ヘルスケア事業**
- **パッケージ・産業用資材事業**

売上高500億円を目指し電源開発を推進

第4次中計(FY2012~FY2014)	中長期構想(FY2015~)
<ul style="list-style-type: none"> ・余剰電力の販売 ・電力供給 ・太陽光発電の開始(大竹FY2013、小松島FY2014) ・PPS登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス発電の開始(八代FY2015) ・石炭火力発電新設 【既決】鈴川(*) FY2016 【検討中】石巻ほか(*) FY2017以降 ・既存石炭火力設備でのバイオマス燃料使用開始 ・太陽光、風力等のFIT案件追加 <p style="text-align: right;">(*)バイオマス混焼可</p>

売上高目標



当社の強み

- ・ 立地
- ・ 人材
- ・ 既存設備
- ・ 周辺インフラ
- ・ 操業・管理技術
- ・ バイオマス調達力、活用技術



※合併事業については持ち株比率で数値を合計

中長期的な視点での事業創造の取り組み

CNF(セルロースナノファイバー)

- 木材繊維をナノ単位にまで微細化した新素材
- 既存事業で培ってきた、木材や木材成分の活用ノウハウを更に深化
- 特長:軽量、高強度、寸法変化が小さく、ガスバリア性が高い
- 想定される用途



樹脂補強材



バリア性包材



機能性添加剤



CNF(顕微鏡拡大図)
20nm



CNF分散液(繊維がナノ化しており、透明)



2013/11 実証生産設備の運転を開始

2030年セルロースナノファイバー
関連材料の市場創造目標
1兆円/年
(自動車部材、情報電子材料、包装材料、
建築材料、食品増粘剤、
高機能フィルター など)

産総研コンソーシアム
ナノセルロースフォーラム資料より

新規バイオマス燃料の開発

既存石炭ボイラーで混焼可能な
新規バイオマス燃料を開発



- 今後の方向性
 - ・実証テスト～実用化技術確立
 - ・設備導入、製造販売



半炭化した杉樹皮のペレット

アグリ事業

- 植林で培った培養、増殖技術を活用
 - ・茶苗の製造販売(国内シェア推定10%前後)
 - ・高機能茶「サンルージュ」の製造販売

- 今後の方向性
 - ・茶苗シェア50%獲得
 - ・サンルージュ事業の強化



サンルージュ

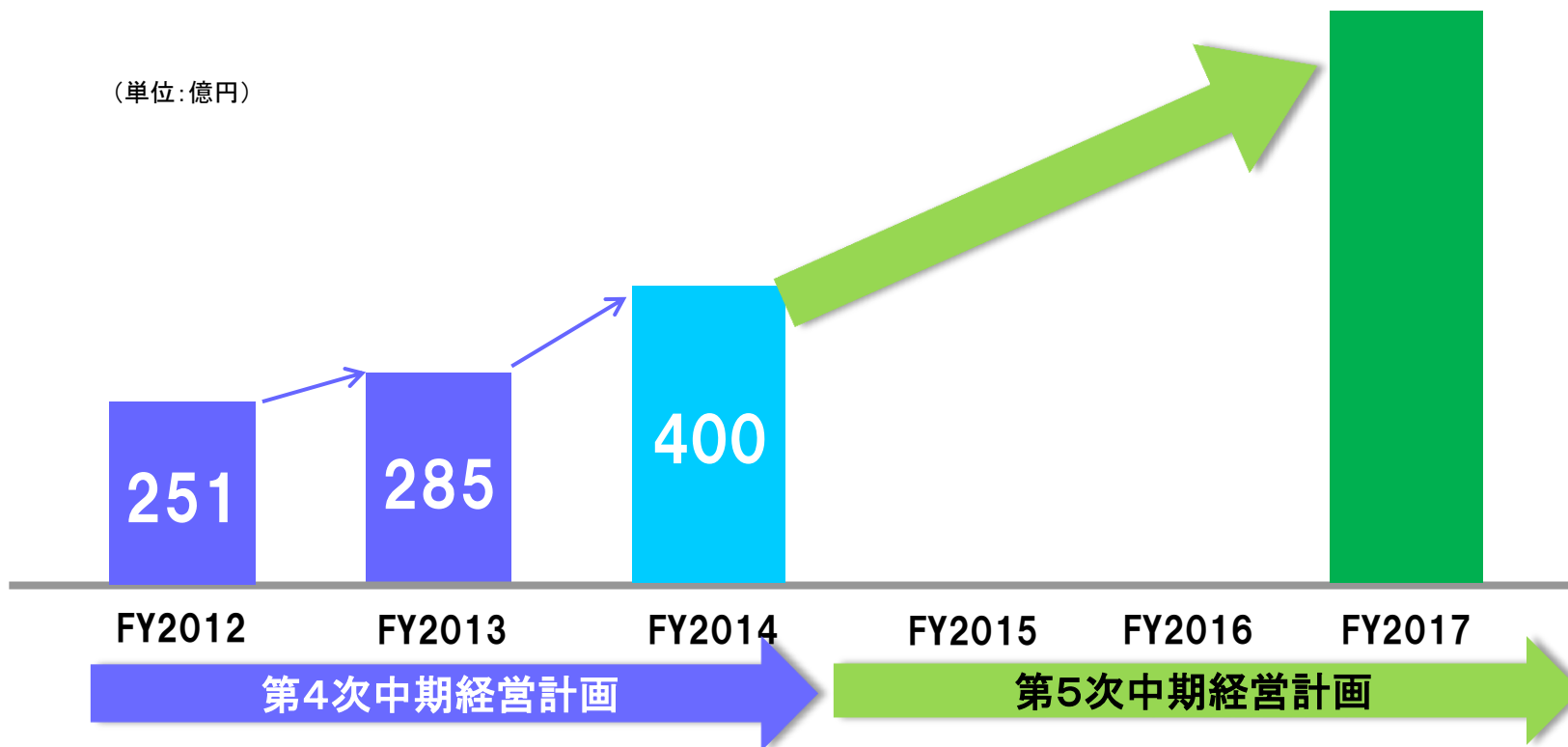
紙・板紙事業の競争力強化

- **コスト競争力強化の継続と最適生産体制の構築**
操業安定化に100億円投資、トラブル撲滅し生産性改善
石巻、秋田、岩国で収益力強化プロジェクト推進中
- **エネルギー事業展開による収益基盤強化**
富士、八代、NPI USA他での電力事業展開
石巻バイオマスコンビナート構想、灰の有価値化
- **高付加価値品種、差別化品種、成長品種への転換**
石巻7号:コート原紙→PPC、釧路6号:新聞→クラフト 実施
AP社:DIP配合製品開発、大竹:紙パック原紙自製化等推進中
アジア向けカップ原紙拡販
- **グローバル販売体制の強化**
洋紙・板紙販売組織再編、技術営業導入、国際販売統括部設置

継続的利益成長に向けて次期中計を策定

- 第5次中期経営計画(FY2015～2017)を今年度中に策定
当社の強みを活かし、「総合バイオマス企業」として持続的成長を図る

(単位:億円)



予測に関する注意事項等

本資料には、会社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定は不正確であることがあり得ます。また、様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

本資料は、いかなる有価証券の申込み、もしくは購入の案内、あるいは勧誘を含むものではなく、本資料および本資料に含まれる内容のいずれも、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。



日本製紙株式会社
NIPPON PAPER INDUSTRIES CO.,LTD.